

# 札幌市立手稲中央小学校の取組

(学校ホームページ <http://www.teinechuo-e.sapporo-c.ed.jp/> )

## 1. 学校の実態・地域性等

本校は手稲山の麓に位置し、自然に恵まれた環境にある。

地域との結びつきが強く、過去には地元の商店会と協力し、スノーキャンドルを地域の店頭や施設に飾り、スタンプラリー等の活動を行っていたこともある。また、連合町内会が主催する「雪中あそび」は、本校を含む2校の児童が参加し、盛況である。また、生活科や総合的な学習の時間には、階段状のスタンドを利用した「米袋ぞり遊び」や「雪像作り」「雪中運動会」などに取り組んできた。

冬季は、積雪が多く、寒さも厳しいが、子どもたちは、ウィンタースポーツや地域のイベント等を通し、雪に親しみながら生活している。

## 2. 実践単元名

6年生 総合的な学習の時間 「ウィンターデコレーション 2014」(15 時間扱い)

## 3. 目 標

- 雪とふれあう活動を通して、冬を楽しむ態度を養い、雪に関わる活動への基本的技能を育てる。
- 寒い雪の中で園児と活動する計画を立てることを通して、雪国の暮らしに関する知識を得るとともに、安全な過ごし方を理解する。

## 4. 取組の様子

- ① スノーキャンドル・カバー・ポスター制作
  - 平成 26 年 1 月 31 日 (金)
  - 児童を半数に分け、手稲中央幼稚園と手稲区保育子育て支援センター(ちあふる)の園児と制作。

事前に6年児童のみでスノーキャンドルの制作練習を行った。バケツへの雪の詰め方、抜き方などにコツが必要なのことがわかった。同時に、園児へ作り方を教える際の関わり方も見えてきた。児童の意欲が徐々に高まる。



制作当日へ向け、キャンドルカバーに使うペットボトル集め、ポスターの原版作成などを行う。相手があることなので、どの児童も楽しそうに活動していた。

当日、やや気温は低いですが晴天の中、園児達と楽しく交流が出来た。4月にお世話した1年生よりも幼いが、よく面倒を見ていたように思う。教えて、やらせてあげて、直してあげるなど、立派なお兄さん、お姉さんぶりであった。点灯式を楽しみに、笑顔でお別れをした。



## ② 点灯式

- 平成 26 年 2 月 5 日（水）・6 日（木）
- スノーキャンドル搬入（ちあふる、国道沿い歩道、近隣の病院）
- 本校、幼稚園、ちあふる、それぞれで点灯式

暗くならないとキャンドルが映えないため、点灯式は各所ごとに行った。一緒に出来なくて、やや寂しい気もするが、6年児童は自校での点灯式の帰り道、ちあふるや幼稚園に寄り、自分たちが関わったキャンドルの成功を確かめ、満足していたようであった。

### 【点灯式次第】

- 手稲中央小学校 玄関前 16:30～
- ① 始めの言葉
- ② 学校長より
- ③ 点灯にあたっての注意事項
- ④ 点灯（学校長&クラス代表3名）
- ⑤ 終わりの言葉
- 19:00 消灯



点灯式には学年の1 / 3程度である 40 名弱の児童と数名の保護者が参加した。

学校長からは、児童の労をねぎらう言葉と共に、「さっぽろ雪まつり」や「小樽雪あかりの路」など地域に根付いた冬の風物詩についての話も為された。この学習が契機となり、いつか子どもたちが、自分たちの手でさらに本格的な地域の風物詩を生み出すようになってくれることを期待したい。

風もなく穏やかな中で行われた点灯式。児童や園児が心を込めて制作したキャンドル。その明かりがゆらゆらと揺れる風景は、道行く人の足を止めるに十分な美しさであった。

## 5. 研究のまとめ



- 園児や保護者・地域の方々の喜びを見て、自己の活動が他者に与える影響を感じることができた。近隣病院にキャンドルを運んだ児童は「待ってたよ」「ありがとう」などの言葉をかけてもらい、照れてはいたが嬉しそうであった。雪との関わりだけではなく、人との関わりをも学んだ実践であった。

- 地域への啓発が不十分であったことは否めない。また、本実践を行うのは、5年生の方が、より適当なのかもしれない。そのような取組により、来春、入学する新一年生とのつながりも生まれるのではないかと考える。